

## 2つのアクション

重点プロジェクトを基軸とする施策全体をより効果的に推進していくため、2つのアクションを位置付け、有機的に連動させた展開を図ります。

### アクション 1

#### 横断的連携による施策の推進

重点プロジェクトをはじめとする横断的に取り組むべき主要事業や課題について、多様な主体との連携や調整の充実を図りながら取組を進めます。

#### 重点プロジェクトを横断して取り組む4つのテーマ

### 地域共生社会の実現に向けた取組

《関連する重点プロジェクト》

重点1 重点2 重点3 重点4 重点5

- 高齢化や核家族化などの家庭環境の変化を背景に、地域でのつながりが希薄化しています。また、介護と育児のダブルケアの問題、自助・共助による防災・防犯体制の必要性、高齢者・子どもの見守りの重要性の高まりなど、個人や家族で抱える課題、地域における課題が複雑化・多様化しています。
- 団塊世代のすべてが75歳以上の後期高齢者に達する2025年に向けて、定年退職後に仕事を中心とした生活から地域を中心とした生活へ移行する人が増加していく見込みです。
- 国は、子ども・高齢者・障害者などすべての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる地域共生社会の実現に向け、社会福祉法の改正などにより取組を推進しています。
- こうしたことを背景に、市は、3つの視点から、地域共生社会の実現に向けた取組を推進します。

#### 地域課題の解決力の強化

地域住民が主体となり、高齢者・障害者福祉、防災・防犯、子育て・教育などの地域の様々な課題に対して地域が一体となって取り組む体制づくりを推進

#### 包括的な相談・支援体制の充実

地域住民等による解決が困難な課題について、市の各分野の相談窓口の充実を図るとともに、市と関係機関との連携による総合的な相談・支援体制を整備

#### 新たな担い手とつながりの創出

地域活動を担う人材を育成するとともに、だれもが気軽に立ち寄れる地域の身近な居場所づくりの推進により、地域のつながりを醸成

### にぎわいとうるおいのあるまちづくり

《関連する重点プロジェクト》

重点1 重点2 重点3 重点4 重点5

- 平成24（2012）年8月に京王線地下化が実現し、調布のまちの都市構造が大きく変貌しました。これに連動し、駅前広場整備、鉄道敷地の有効活用、道路整備など、南北一体のまちづくりを進めてきました。
- 平成29（2017）年9月には、調布駅に商業的な一大転換期となったシネマコンプレックス「シアタス調布」を含む複合商業施設「トリエ京王調布」が開業しました。
- ラグビーワールドカップ2019™日本大会や東京2020大会（オリンピック・パラリンピック）の開催地であることから、これらの大会を契機に、市内外から多くの方が調布を訪れる見込みです。
- 引き続き、商工会・事業者などと連携した商業活性化に取り組むとともに、駅前広場や鉄道敷地など、利便性・にぎわい・うるおいを兼ね備え、人々が集い、交流する都市空間を創出していきます。
- 調布駅を拠点の一つとし、「映画のまち調布」「深大寺」「水木マンガ」などの地域資源を生かした観光振興、市内回遊性や観光スポットへのアクセス向上に取り組みます。

#### まちの骨格づくり

- 調布駅前広場の整備
- 交通結節機能の向上
- 歩行者の回遊性の向上
- 鉄道敷地の整備と活用
- ユニバーサルデザインに配慮した交通環境の向上
- 自転車走行空間の整備
- 多言語を含む公共サインの整備
- 環境に配慮した道路の整備



#### にぎわい・交流

- 商店会等と連携した商業活性化の支援
- 芸術・文化等の地域資源を活用した魅力の発信
- 「映画のまち調布」の推進
- シェアサイクルを活用した市内回遊性の向上

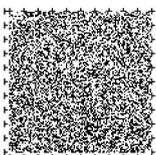


#### うるおい・やすらぎ

- 良好な市街地の形成
- 自然豊かな都市環境の形成
- 花いっぱい運動の推進



©水木プロ



## アクション 2

### 調布のまちの魅力発信

調布のまちの魅力を高め、その魅力を多様な媒体を活用し市内外に積極的に発信するとともに、市民の調布のまちに対する愛着と誇りを高め、重点プロジェクトを基軸とした施策の推進、都市としての付加価値の向上につなげます。

#### 《関連する重点プロジェクト》

重点1 重点2 重点3 重点4 重点5

### 2019年・2020年を契機としたレガシーの創出

- ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックと2年にわたって世界的な国際大会が調布市内で開催されます。
- 市は、平成28（2016）年7月に策定した「2020年に向けた調布市の取組方針」に位置付けた5つのテーマに基づき、大会の準備段階から開催後にわたり、多様な主体と連携・協働した様々な角度からの取組を通じて、まちづくりの多面的効果をもたらす有形・無形のレガシーを創出し、調布のまちの更なる発展と魅力の向上、そして多摩地域全体の振興につなげていきます。
- とりわけ、パラリンピック開催を契機としたレガシーの創出に向けた取組を推進します。

#### 5つのテーマと創出するレガシー（2020年に向けた調布市の取組方針）

##### スポーツ・健康づくり

- ◆だれもがスポーツに親しみ、楽しめる環境づくり、スポーツを支えるボランティアの確保育成
- ◆都内4大スポーツクラスターのひとつとして、多くの国際大会等の開催、多摩地域のスポーツ拠点の形成
- ◆スポーツを通じた市民交流
- ◆スポーツ等を通じた健康増進

##### 産業・観光振興

- ◆商工会・観光協会、鉄道事業者など、多様な主体と連携した観光プロモーションの実施
- ◆地域資源の魅力発信、観光ボランティア等によるおもてなしによる来訪者の増加
- ◆多摩地域が相互に連携した観光振興

##### まちづくり

- ◆地域の特性を生かした環境負荷の少ない持続可能で魅力的な都市空間の形成
- ◆景観まちづくりの取組による街並み景観の向上
- ◆外国人を含む利用者の視点に立った分かりやすく親しみやすい公共サイン整備による回遊性の向上
- ◆ユニバーサルデザインの考えに基づく福祉のまちづくりの推進

##### 文化・国際交流・平和

- ◆文化プログラムと連動したイベントの継続
- ◆日本の伝統や文化、参加国・地域の文化や言語、共生や平和の理念などに関する生涯学習の推進

##### 教育・青少年の健全育成

- ◆児童・生徒が運動・スポーツに親しむことによる基礎体力の向上
- ◆子どもたちの自己実現の促進と共生社会や国際社会を担う資質・能力の育成
- ◆日本人としての自覚と誇りの醸成と日本の良さを世界へ示す意欲と力の育成
- ◆平和な社会の実現と持続可能な社会づくりへのスポーツ・文化の貢献に対する理解促進と、主体的に社会貢献する力の育成

#### 《関連する重点プロジェクト》

重点1 重点2 重点3 重点4 重点5

### パラリンピックレガシーの創出

- 調布市では、障害の有無にかかわらず、だれもが住み慣れたまちで安心して暮らし続けられる共生社会の実現に向け、ユニバーサルデザインの理念に基づくまちづくりを進めています。
- 2020年のパラリンピック競技大会を契機として、これまでの取組を一層推進するとともに、障害者スポーツの普及や障害者への理解促進、だれもが移動しやすい環境整備や公共施設のバリアフリー化など、多様な主体との連携・協働により、有形・無形のパラリンピックレガシーを創出していきます。



#### ソフト面の取組

連携

#### ハード面の取組



#### ○障害者スポーツの推進

- ・障害者スポーツの振興
- ・パラスポーツ体験機会の創出
- ・障害者スポーツ・余暇活動の場の確保

#### ○障害者理解の促進

- ・障害者差別解消法の普及啓発
- ・福祉作業所等連絡会、調布心身障害児・者親の会等と連携した取組
- ・商工会と連携した障害理解の促進
- ・パラアート等の普及推進
- ・だれもが芸術・文化に触れることができる機会の創出

#### ○オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成

- ・心のバリアフリーの推進
- ・多様性を尊重する意識の醸成

#### ○移動の円滑化・バリアフリー化の推進

- ・すべての人が円滑に移動できる交通環境の整備
- ・競技会場周辺のバリアフリー化
- ・スポーツ施設等のバリアフリー化
- ・公衆・公園トイレの改修に向けた検討
- ・多言語を含む公共サインの整備
- ・商工会を通じたバリアフリー化の推進

心のバリアフリーの推進  
様々な障害に対する理解の促進

ユニバーサルデザインの  
まちづくりの推進

